



通算 15 アンダーの大会最少スコア

香妻陣一郎（宮崎・日章学園高 3 年）が圧倒的強さで 2 連覇

女子は 3 アンダー

篠原真里亜（福岡・沖学園高 1 年）が逆転で初 V

26 日は最終ラウンドが行われ、15～17 歳の部の男子で初日首位の香妻陣一郎（宮崎・日章学園高 3 年）がこの日も 8 アンダーとスコアを伸ばし、史上最少ストロークの通算 15 アンダー、129 で大会 2 連覇を果たした。従来の記録は、1997 年に清田太郎（当時沖学園高）、

2001 年に正岡竜二（当時西原高）がマークした 10 アンダーで、それを更新するもの。

香妻は今年、JGA（日本ゴルフ協会）のナショナルチームメンバ

ー入り。九州ジュニア選手権は中学（宮崎・日章学園中）時代に 2 連勝しており、高校世代でも 2 連勝と圧倒的強さを見せつけた。また、高校生活最後となる今季は、九州アマチュア選手権優勝に続き、連盟（GUK）主催競技 2 冠となった。

10 打差の通算 5 アンダー、139 で日章学園高同級生の尾崎秀平が単独 2 位。通算 4 アンダー、140 で小原井篤（福岡・九州国際大付属高 3 年）が 3 位に入り、さらに 1 打差の 4 位タイに池村寛世（鹿児島・尚志館高 2 年）、坂牧一静（福岡・沖学園高 3 年）、比嘉一貴（沖縄・本部高 2 年）の 3 人が並んだ。

同女子は首位に 1 打差 2 位タイスタートの篠原真里亜（福岡・沖学園高 1 年）がこの日 70 で回り、逆転 2 打差をつけて初優勝した。篠原は公式競技初勝利。2 打差の 2 位にはこの日 1 アンダーの大城美南海（熊本国府高 3 年）、さらに 1 打差のイーブンパー、144 で井上沙紀（福岡・沖学園高 1 年）。初日首位の佐伯珠音（同 2 年）はこの日 76 と崩れ、柏原明日架（宮崎・日章学園高 2 年）、堀亜梨紗（熊本国府高 2 年）とともに 5 位タイだった。

JGA ナショナルチームメンバーは、大城、佐伯、柏原のほかは山内日菜子（宮崎・日章学園高 1 年）が、この日ベストスコアの 69 をマークして初日の 25 位タイから浮上した永峰咲希（宮崎日大高 2 年）らとともに 8 位タイと上位を確保した。



12～14歳の部はともに初優勝の新顔

男子は玉城元気(沖縄・今帰仁中3年)

女子は田中瑞希(熊本・桜木中2年)



中学生世代の12～14歳の部は、特に女子で波乱。今年の九州女子選手権優勝の勝みなみ(鹿児島・長田中2年)に期待が集まったが、ショット、パットとも不調で通算9オーバーの9位タイと“低迷”。

変わって浮上したのが、田中瑞希(熊本・桜木中3年)だった。初日、72のスコアで4人が並ぶ混戦から、最終日は2アンダーをマークして抜け出し、2位に7打の大差をつけ初優勝の栄冠を手にした。田中は小学6年で出場した九州小学生大会の女子の部でも優勝しており、九州は2つ目のタイトル。



その2位は新垣比菜(沖縄・具志川中2年)で通算5オーバーの139。さらに1打差の3位に大里桃子(熊本・南関中2年)だった。

男子は、自身のベストスコア69をマークした玉城元気(沖縄・今帰仁中3年)が初日の11位タイから浮上して逆転優勝した。1打差の2位には初日首位の岩本慎作(熊本・長嶺中2年)で、通算1オーバー、145の3位はこの日70の山内南雲(宮崎・日章学園中2年)だった。

この試合の結果、15～17歳の部男子上位18人、同女子14人、12～14歳の部男子9人、同女子11人(いずれもシード選手を除く)は8月15日～17日、埼玉・霞ヶ関CCで行われる第18回日本ジュニア選手権競技への出場資格を得た。

コンディションは晴れ、気温32度、北東の風3m(正午現在)。



“ナショナル効果”で鍛えられた

プロへの道を進む香妻陣一郎

九州アマチュア界といより、日本のトップ級アマに育った香妻陣一郎が驚異的スコアをたたき出して独走。後続に10打差をつけるぶっちぎりで大会2連覇を達成した。

九州の尾根くじゅう連山のふもと、標高700mの高原に位置する久住高原GC。涼しいと思ったら大間違いで、照り付ける夏の太陽は容赦なく選手を苦しめた。

この日、香妻は2位に2打差をつけてのスタートだった。ところが、インからの10、11番と連続バーディーを奪うと、あとはバーディーの山。上がってみればボギーなしの8バーディーで、なんと通算15アンダーをマークしたのだ。

「ピン位置は結構難しかったけど、アプローチがいいところについた。距離感、方向性ともよくて、パットも良かった」。試合後の談話だが、言葉通りだと、当然のスコアだったろう。「2ケタアンダー行けばいいかな、と思っていたけど、途中から、通算スコア120台を目指そうかなと目標を変えた」というほどの自信に満ちたものだった。



中学時代の九州ジュニア2連勝、高校生活最後の今年は九州アマチュア選手権初優勝と、ジュニア連覇達成。姉は弟同様、九州女子選手権、九州ジュニアを制した現プロの琴乃。

香妻にとって大きかったのは今年、JGAのナショナルチームメンバーに選ばれたことだろう。周囲の期待の大きさ。技術や成績だけでなく、ゴルファーとしての品格も求められる。「(大会で)上にいかなければ、というプレッシャー。それだけでなく、行いや態度でも日本を代表するアマとしてちゃんとしなければいけない。それが私のゴルフを鍛えてくれたと思う」と香妻だった。

この後は、まだタイトルがない日本選手権に挑戦する。JGAから派遣され、海外試合も経験した。決して手が届かない位置ではない。「ラストチャンスですからね」と決意を固める香妻だ。

「ラスト」というのも、日本ジュニア後の8月末には、プロへの道、QT(クオリファイイング・トーナメント)に挑む。かつて、「早くプロになりたい」と語っていた香妻だが、目標は明確だ。そのプロへの道の大きな手土産に、「日本ジュニアのタイトルを」というのだろう。

(Kiku)

プレーオフ敗退の雪辱を果たした篠原真里亜

篠原真里亜が高校1年目で九州ジュニアのタイトルを手にした。中学3年の昨年の大会でプレーオフに敗れ、涙をのんだタイトル。それだけに、「自分ではそう簡単には勝てるとは思っていなかった。うれしいです」と表情をほころばせた。

会場から近い大分県九重町出身。さらにゴルフを高めたいと福岡の沖学園に進学した。昨年は、今年九州女子を制した勝みなりにプレーオフで敗れた。ところが、高校に進学した今年は、ほとんどが上級生が相手。「自分ではやれるだけやろうと思って臨んだ」。ナショナルチームメンバーを中心にしたジュニア界の実力者相手のラウンドになったが、「パターには自信があったので、入れやすいところへ乗せることだけを考えて打った」。その結果であり、決して転がり込んだ結果ではない。

さて、日本ジュニアは「九州で勝ったからには、優勝を目指します」と精神的にも自信をつけた篠原。「このままの流れで挑みます」と言い切った。

12～14歳の部男子優勝の玉城元気

「ショット、パターが良かった。ピンにぴたっと寄せられました」という。5ハーディー、1ボギーの68というスコアをたたき出し、口調も滑らかだった。

小学5年からのゴルフでキャリアはまだ5年。これまでは5オーバーがベストスコアだったが、一気に9打も更新してしまった。

初めてのゴルフでの優勝が、九州ジュニアというビッグタイトル。勢いに乗る玉城は「日本ジュニアは初めて出ます。九州代表として上位を目指して頑張ってきます」と「元気」がよかった。

次の目標は全国Vの田中瑞希

「パープレーを目標に頑張りました。それと、ボギーを打たないゴルフです」。ただ1人のアンダーパー、70をマークして逆転優勝した田中瑞希。スコアは3バーディー、1ボギーで「ちょっと残念だし、悔しい」というが、全体的には「上々でした」と笑顔を見せた。

小2からのゴルフで、ゴルフスクールに通いながら腕を磨いてきた。身長152センチの体ながら、好きなクラブのドライバーは平均230ヤードも飛ぶというから驚き。

夏の日本ジュニアでは、「ショットの精度をもっと高め、次は全国での優勝を目指したい」とはっきりしていた。

15～17歳は男女ともJGAナショナルチームメンバーが首位発進

7アンダーの香妻陣一朗（宮崎・日章学園高3年）

2アンダーの佐伯珠音（福岡・沖学園高2年）



(C)GUK

7アンダーと好調な出だしの香妻陣一朗

で単独トップ。アンダーパーはこの3人だけで、男子に比べ、少数激戦となった。

25日は第1ラウンドが行われた。日本や九州のアマチュア界を代表する強豪がそろそろ注目の15～17歳の部の男女だが、男子は今年の九州アマ覇者で、九州ジュニア連覇を目指す香妻陣一朗（宮崎・日章学園高3年）が1イーグル、8バーディー、3ボギーの7アンダー、65で単独トップに立った。香妻はJGAのナショナルチームメンバー。

2打差の67で三重野里斗（福岡・沖学園高3年）が2位につけ、3位には68で尾崎秀平（宮崎・日章学園高3年）。さらに1打差69で坂牧一静（福岡・沖学園高3年）、比嘉一貴（沖縄・本部高2年）、千葉蒼隼（福岡・一ツ葉高2年）、和田章太郎（同・福岡第一高2年）の4人が4位タイで並走。

この試合、アンダーパーをマークしたのは13人にもものぼる激戦模様の初日となった。

女子は2アンダー、70で回った佐伯珠音（福岡・沖学園高2年）が、2位タイに並んだ柏原明日架（宮崎・日章学園高2年）、篠原真里亜（福岡・沖学園高1年）の2人に1打差をつけて



(C)GUK

2アンダーで首位の佐伯珠音

12～14歳の部も接戦

男子は1アンダーで岩本慎作（熊本・長嶺中2年）が単独首位

女子は72で中西絵里奈（鹿児島・志布志中2年）ら4人が並ぶ

12～14歳の部は、男子がただ1人、アンダーパーの71をマークした岩本慎作（熊本・長嶺中2年）が単独首位。1打差のイーブンパー、72、2位タイに田辺一成（Orangewood Academy 2年）、吉田祐貴（久留米・諏訪中3年）、菅卓人（宮崎北中3年）、吉行直人（宮崎・高城中2年）の4人、さらに1打差、73の6位タイに大輪大（福岡・沖学園中3年）、葛城史馬（大分・安心院中中3年）、君嶋司（福岡・沖学園中3年）、坂本隆一（大分・長洲中3年）、古川雄大（福岡・平野中）の5人と2打差に10人の激戦。

女子は中西絵里奈（鹿児島・志布志中2年）、天本遥香（福岡・沖学園中2年）、田中瑞希（熊本・桜木中2年）、比嘉梨沙（沖縄・金武中3年）がイーブンパーの72で首位に並んだ。連覇を目指す今年の九州女子選手権優勝の勝みなみ（鹿児島・長田中2年）は4オーバー、76で8位タイとやや出遅れた。

同選手権には15～17歳の部男子44人（欠場1人）、同女子46人（同1人）、12～14歳の部の男子36人、女子33人（欠場1人）が出場した。梅雨明けと同時に襲ったかのような酷暑。じりじりと照りつける炎天下、選手たちは元気にラウンドした。



ライバルたちの燃える夏

高校生にとっては、この夏のジュニア選手権は日本選手権につながる重要な大会。中でも、3年生の主力選手の中には、プロ転向をにらみながらのアマチュア最後の夏に挑む姿も見られる。タイトルを手にして「有終の美」を飾りたいという思い。対して、先輩に追いつけ、追い越せと挑む後輩たち。そんな選手たちの一言を集めた。

ティーオフを待つ
香妻陣一朗(左)と、比嘉一貴(右)



「7アンダーは上出来です」香妻陣一朗

○…九州ジュニア連覇で今季GUK競技2冠を狙う香妻陣一朗 9番(パー5)のイーグルは、残り200ヤードを5番アイアンで2段グリーンの下5mにつけた。それが入った。ティーショットは悪かった。10番では左にOBです。けど、ショットの悪さの割にはパッティングが好調だったし、上出来です。最終日は攻めて、タイトルを…。

「アマ最後だし、タイトル欲しい」三重野里斗

○…67で1打差2位の三重野里斗 前半は9番での1イーグルのほか3バーディー、1ボギー。後半はパーを重ねて18番でやっとバーディー。2mぐらいにつけるけど、入らなかった。パットがですね…。1カ月ぐらい前から飛距離

離が出るようにスイングを改造中です。アマチュア最後の試合だし、このジュニア選手権はぜひ欲しいタイトルです。

「勝って終わりたい」尾崎秀平

○…6バーディー、2ボギーで香妻に3打差の3位、香妻の同級生、尾崎秀平 このほかにも1m前後を外した惜しいパットが2つ。どちらかをとれば展開は変わったかも。九州のタイトル欲しいし、最後の学年だし、(香妻に)勝って終わりたい。



「4差は射程内。いいリズムのゴルフをしたい」比嘉一貴

○…先の日本アマでは準優勝と大健闘の比嘉一貴 (出だしの1番パー5でいきなりのイーグルのあと2バーディー、1ボギー) イーグルスタートだからだからといって、いい予感がしたわけでもありません。ティーショットは良かったが、アイアンがひっかかり気味で、パットも今一。陣一朗先輩はやっぱ、うまいですね。けど、4打差は射程。最終日はリズム的にもいいゴルフをしたい。

「ライバル多いけど取りたい」佐伯珠音

○…3バーディー、1ボギーの70で女子15~17歳の部首位発進の佐伯珠音 練習ラウンドはあまり調子よくなくて不安だっ

た。それがショット、パットがうまくかみ合った。九州はライバルが多い。それだけにぜひ取りたいタイトルです。



「九州で勝ちたい」 柏原明日架

○…3バーディー、2ボギーで1打差2位タイの柏原明日架 ティー、アプローチ以外はダメ。パッティングは後半よくなるどころか悪くなった。今年は調子が下がり気味で、自信なくしかけていた。(それがJGAから派遣されて出場した英国でのジュニアオープンで日本女子初の優勝)あれで吹っ切れたかなと。“がんばれ、”の声は聞こえているし、うれしいこと。やはり、九州で勝ちたい。

「パッティングを修正して…」 篠原真里亜

○…3バーディー、2ボギーで柏原とともに2位タイの篠原真里亜 前半はアイアンショットがあまり良くなくてボギー2個。後半はバーディー3個と盛り返しました。ドライバーショットは問題なかったし、あとはパットを修正して最終日に臨みたい。

「自分のゴルフでベストスコア」 岩本慎作

○…12~14歳の部でただ1人アンダーパーをマークしトップの岩本慎作 (5バーディー、4ボギー) ボギーのうち2回は3パットだったけど、全体的にはパットは良かったと思います。71は僕のベストスコアです。最終日も、自分のゴルフができれば…。

「気合は入っていたけど」 葛城史馬

○…1オーバー6位タイ発進の葛城史馬 気合は入っていたんですが…。アプローチショットは良かったけど、パットが思うように入らなかった。今年に入って、パットが良くなかった。明日はがんばります。

「悔しい…」 篠原剛

○…3オーバーで14位タイと出遅れの福岡・沖学園中1年の篠原剛(女子の篠原真里亜とは従姉弟) 前半は1アンダーだったけど後半はショット、パットともかみ合わなくなっていました。悔しいです。

「気持ちを切り替えて逆転を」 勝みなみ

○…九州女子チャンピオンの勝みなみは4オーバー8位タイ発進 練習不足だし、集中力も足りなかった。練習での手抜きというか、どこがどうとは言えないのだけど、自分の心の奥底で手を抜く気持ちがあったんじゃないか。しかし、明日頑張ればまだやれると思う。気持ちを切り替える。



「明日頑張る」 新垣比菜

○…首位に1打差5位タイの新垣比菜 (小6で最年少女子プロトーナメント出場歴も) ドライバーは良かったけど、3パットを2回したし、パッティングがちぐはぐだった。明日頑張ります。



あす 25 日から久住高原ゴルフ倶楽部で開幕 日本、九州を担う強豪がそろって出場

第 32 回九州ジュニア選手権競技は 25 日から、大分県竹田市の久住高原ゴルフ倶楽部（男子 7031 ㌦、女子 6418 ㌦＝パー72）で行われる。

出場は男子 15～17 歳の部 45 人、同女子 47 人、12～14 歳の部男子 36 人、同女子 34 人で、総勢 162 人（エントリー）の予定。競技は 2 日間全員の 36 ホールストロークプレーで行われる。

ジュニアのレベルが高い九州。各年代とも日本、九州を代表する有力選手がそろった。

まず、男子 15～17 歳の部は JGA のナショナルチームメンバーでもあり、今年の九州アマ優勝の香妻陣一朗（宮崎・日章学園高 3 年）。先の日本アマでは決勝進出は逃したものの、3 位に入りその実力を示した。対抗する比嘉一貴（沖縄・本部高 2 年）は日本アマで準優勝と善戦、昨年のベスト 8 を上回る成績を残している。さらに、春の九州高校選手権を制した池村寛世（鹿児島・尚志館高 2 年）や、一昨年の九州アマ優勝の三重野里斗（福岡・沖学園高 3 年）、尾崎秀平（宮崎・日章学園高 3 年）、千葉蒼隼（福岡・一ツ葉高 2 年）らがそろろう。

女子も JGA のナショナルチームに名を連ねる 5 人が出場する。柏原明日架（宮崎・日章学園高 2 年）、永峰咲希（宮崎日大高 2 年）、佐伯珠音（福岡・沖学園高 2 年）、山内日菜子（宮崎・日章学園高 1 年）、大城美南海（熊本国府高 3 年）。さらには、種子田香夏（福岡・沖学園高 2 年）、新海美優（大分高 2 年）、秋山真凜（福岡インターナショナルスクール 1 年）といった実力者が控える。

中学世代の 12～14 の部も、女子では今年の九州女子選手権チャンピオンで九州ジュニア連覇を目指す勝みなみ（鹿児島・長田中 2 年）、男子は昨年の日本ジュニア 5 位の葛城史馬（大分・安心院中 3 年）、今年の九州アマで 19 位タイの菅卓人（宮崎北中 3 年）、同 21 位タイの坂本隆一（大分・長洲中 3 年）らに期待がかかる。

25 日の第 1 ラウンドは午前 7 時半、アウト、イン同時にティーオフの予定。

